

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 根尾 櫻子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

学生さんが、各学年で習得すべき必要な基本的な知識（国家試験レベル）に加えて、卒業後に活用・応用できる知識を身につけることに責任を持って授業を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医総合臨床実習（内科）	獣医学科	必修	5	130
小動物獣医総合臨床2	獣医学科	必修	5	130
小動物病院実習	獣医学科	自由	6	6
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	130
総合獣医学	獣医学科	必修	6	130
臨床病理	獣医学科	必修	4	130
卒業論文	獣医学科	必修	6	5
獣医学特論1	獣医学科	必修	6	5
卒業論文	獣医学科	必修	5	3
獣医学特論1	獣医学科	必修	5	3
卒業論文	獣医学科	必修	4	1
獣医学特論1	獣医学科	必修	4	1
動物臨床検査学	獣医保健看護学科	必修	2	70

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

【教育理念】

- ①学生が主体的に問題を解決し、また、疑問を同級生や教員と協力して最適な方法を自らみつけて解決する方法を学べる教育。
- ②将来、限られた情報や時間で疑問解決を導くことを指導する効率的な授業。
- ③学習を定着させ、将来に向けての学修を実施することで、卒業後の社会でも不安なく問題を解決する方法を身につける授業。

【教育理念を遂行するための自分の教育アプローチ】

獣医学部での教育を受けた後、学生は、小動物や産業動物臨床、公務員、製薬企業、研究職など様々な分野に進んでいく。どの分野においても常に解決をしなければならない問題や疑問は発生する。その際には学生時代に培った問題解決能力が重要である。将来的に問題解決ができる能力をつけるために、学生時代にまず、個々で問題を解決する解決法を、筋道を立てて考え、周囲の同級生や教員とアイデアを出し合いながら最適な方法を見つけることを達成できるように教育する。また、限られた情報や時間を効率的に活用して問題の解決ができるような方法も指導する。さらに、卒業後、新しい社会で困難を感じた時にも不安を和らげられるように、学習を定着させること、また、困った時には仲間や大学の教員に相談することも解決策であることを教える授業を遂行する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

【教育の目的】

将来獣医師免許を持った際に、不安なく活動できるように必要な知識と問題解決能力を持てるようにする。

【教育目標】

学生が卒業後に獣医師として社会で通用する能力を身につけること。国際的に通用するレベルの教育を行うこと。

【教育内容】

基本的な知識を身につけさせることとその応用力が持てるような協力を志している。また、アドバンス教育では、アメリカの獣医学教育の中で、3年間の専門医教育トレーニングを受けた自身の経験をもとに、国内においても、10年進んでいると言われていた欧米の獣医学教育と同等の教育を行うことを目標として常に教育を行っている。獣医師にも専門があるように、学生にも得意な科目、不得意な科目がある。不得意な科目である場合にはそれを仲間と協力することで克服していくことを教えている。また、将来仕事をする上で大切なことは、もちろん自分自身の能力を高めることもあるが、それ以上に、その時々の問題点（例：重症例の診察、治療など）が解決できることであり、それを行うためには、学生が、自分の力だけでなく、相手の意見を受け入れ、協力して問題解決に取り組めるように気にかけている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

有

特に、5年生の小動物臨床実習（参加型臨床実習）、また、6年生の小動物病院実習（臨床病理）では、血液、骨髄、細胞診のスライドを学生さんに通常は顕微鏡で、今年度はWebで配信した標本の写真を用いてまず診断をしてもらう。診断を進める上では、学生同士で積極的に意見交換をすること、また資料を活用することを推奨している。自分たちの力で解決ができるところまで解決し、またその解決に至るまでに協力することを学んでもらう。そうすることで、将来的に動物の診療のみならず、何らかの問題を解決しなければいけない際の問題解決能力を育成できると考えている。今年度6年次はオンラインでの授業となったが、モチベーションを保つため、ディスカッションに力を入れた。

（2）ICTの教育活用

有

対面形式の授業は録画し、それを公開することで復習に用いることができるようにしている。2025年度の前期はオンデマンドまたはオンライン授業対応となったことから、モチベーションを保つためにもオンラインで実施する小テストでは自分で調べて考えて解き、解説を見て学習に生かす、という方針で実施した。また質問対策として個別にメール対応を行った。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

臨床病理や小動物総合獣医学などの授業では、国家試験も念頭に置き、授業中に国試に出題された箇所と知識の活用の仕方を伝えた。5年生の参加型臨床実習では、顕微鏡を使った細胞診の実習で、実際に学生が診断を行うが、それを解説する中で、国家試験に出題された問題を提示しながら、国家試験を受験するにあたり、知っておくべき細胞の見方を教えた。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業では小テストを用いることで学生の理解度の把握を行った。質問に対しては授業の合間に、またはEメールで解答することで理解度の把握を行った。個別対応で質問に対応すると理解度が深まるようである。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

課題を提示し、それを解決するために、各自およびグループで調べてディスカッションをするように取り組んでいる。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

対面で聞ける学生さんには、わかりにくいところ、理解できないポイントを尋ねることにしている。Eメールの場合は、個別に理解できたかを確認している。個別、少人数で話をする、学生さんも話しやすいようです。

(5) 双方向授業への工夫

B

特に5年次の参加型臨床実習では、学生さん主体で顕微鏡操作をしてもらい、それを班の皆で見ながらわからないところを学生さんが質問し、それに対して解答、解説、また発展的なディスカッションをすることに心がけた。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

該当なし

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

現在コーディネーターを務める臨床病理では、毎年、第1回目の授業で学生さんに授業評価を公表し、対策を示す。学生さんに対しては、授業でわからない所があれば質問をしてください、と毎回伝える。臨床病理に関しては教員に対して理解しやすい授業を試みてくださようお願いしている。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業およびEメールでは質問を多く受けた。しかし、日本語での臨床病理の教科書がないことは、理解度が深まらない原因だと感じている。今後、コアカリテキストを含め、改定を実施する計画もあることから、それらをうまく活用するようにしたい。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

担当教員には積極的に質問に回答することをお願いする予定である。また、その質問とその質問への回答を全員に共有したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

授業内で各授業のポイントをまとめたスライド提示するようにしたことで、少しは理解しやすくなったと考える。次年度に向けて、国家試験での出題例を授業の中で提示することで、よりポイントが分かりやすい授業にしたい。また実習では課題に対して学生間および教員学生間でディスカッションを積極的に行うように心がける。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特に6年次の小動物病院実習では、一つ一つの症例に関して教員、学生、交えてディスカッションをすることで深く考えることができ良かったという感想をもらった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

FD研究会には、外部との外せない会議と重ならない場合は出席し、出席できない場合は、録音されたものを聞かせていただいた。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

短期目標

授業評価で、学生さんが授業を楽しめた！理解できた！との反応を得ることを目標とした。

長期目標

卒業後に麻布大学で学んで良かった！と思ってもらう。さらに我々の行なっている臨床教育を受けた学生が獣医師として麻布大学動物病院に戻り、麻布大学動物病院がより発展すること、さらに麻布大学で学べば国際レベルの獣医師となれるようにすること。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（FDプログラム参加，複数年のシラバス）

3. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント

4. 指導学生の学会発表，学生の進路選択への影響